

- 問1 平安時代に、地方に赴任せずに京に留まったまま役職だけを持つ国司のことを何という？
- 問2 清少納言が記した、宮廷の生活や自然について独自の感性で書きつづった日本を代表する文学形式は何？
- 問3 娘を天皇の后にして天皇の親戚となり、藤原氏の全盛期を築いた人物は誰？
- 問4 794年、奈良の平城京から都を現在の京都へ移し、新しい都を建設した天皇は誰？
- 問5 平治の乱で勝利し、武士として初めて太政大臣に任命された人物は誰？
- 問6 894年に菅原道真の提案によって中止され、日本独自の文化を発展させるきっかけとなった出来事を何という？
- 問7 空海が開いた高野山の金剛峯寺が総本山である、平安時代に広まった仏教の宗派を何という？
- 問8 平安時代に発達し、日本の物語文学が発展するきっかけとなった、日本語の音を書き表す文字を何という？
- 問9 平安時代に唐から帰国し、比叡山に延暦寺を建てて天台宗を開いた僧は誰？
- 問10 国風文化のなかで、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問11 「この世をば わが世とぞ思う…」と詠み、当時の絶大な権力を誇示した人物は誰？
- 問12 1086年に天皇の位を譲った後、上皇として御所外から政治の実権を握った人物は誰？
- 問13 平安時代中期、天皇の后を出すことで政治の実権を握った代表的な一族は誰？
- 問14 平安時代中期、貴族の邸宅として発展した日本独自の建築様式を何という？
- 問15 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？
- 問16 「この世をば わが世とぞ思う 望月の 欠けたることも 無しと思えば」という歌を詠み、摂関政治の全盛期を築いた人物は誰？
- 問17 平安時代、父・道長の別荘を寺院に改め、宇治に平等院鳳凰堂を建立した人物は誰？
- 問18 摂関政治の全盛期に「望月の歌」を詠み、栄華を極めた人物は誰？
- 問19 平安時代中期に『源氏物語』を執筆し、一条天皇の中宮彰子に仕えた女性作家は誰？
- 問20 平安時代初期に、唐から真言宗を持ち帰り、金剛峯寺を建立した僧は誰？
- 問21 平安時代に宮廷の出来事や自然の美しさを短文でつづった、日本最古の随筆を著した女性は誰？
- 問22 平安時代初期、朝廷の支配が及びにくかった日本の北東部地域を何という？
- 問23 平等院鳳凰堂などの建築に影響を与えた、阿弥陀仏にすぎる信仰を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 逢任	逢任（ようじん）は、国司が自らは現地に行かず、代わりに代官である「目代（もくだい）」などを派遣して統治させる形態です。これにより国司は責任を回避しつつ収益だけを確保することができましたが、地方政治の腐敗を加速させる要因となりました。
問2	答え 随筆	随筆（エッセイ）は、決まった形式にとらわれず、作者が思ったことや見たこと、季節の移り変わりなどを書き記す形式です。清少納言の『枕草子』はその代表格であり、彼女の鋭い視点やユーモア、時には批判的な意見なども書き込まれています。かな文字が使われたことで、日本語特有のリズムや情緒を豊かに表現できるようになりました。
問3	答え 藤原道長	藤原道長は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。この強力な血縁関係を武器に、政治の決定権を独占し、藤原氏による統治の最盛期を現出させました。
問4	答え 桓武天皇	桓武天皇は、こうした古くからの仏教勢力の強い影響を断ち切り、天皇中心の強力な政治を行うために遷都を断行しました。まず長岡京への遷都を試みましたが、工事の難航や不祥事により中止し、新たに平安京を建設しました。平安京は四神相応という風水思想を取り入れた計画的な都市として設計されました。
問5	答え 平清盛	平清盛は、平治の乱で源義朝を破って政権を握りました。武士として初めて太政大臣に任命され、一族の繁栄を築き上げました。また、日宋貿易を積極的に行い、経済的基盤も強化しました。
問6	答え 遣唐使の廃止	894年、朝廷で活躍した菅原道真の建議により、遣唐使の派遣は停止されました。この決定により、それまで唐から学んでいた制度や文化の影響が弱まり、日本独自の「国風文化」が発展する契機となりました。
問7	答え 真言宗	真言宗は、空海が唐から持ち帰った密教の教えに基づく宗派です。呪文や曼荼羅（まんだら）を用いて悟りを開くことを目指す点が大きな特徴です。高野山にある金剛峯寺は、現在も真言宗の総本山として広く知られており、当時の貴族たちからも厚い帰依を受けていました。
問8	答え かな文字	かな文字は、漢字の一部を省略したり、崩したりして作られた文字体系です。平安時代になると、この文字を使って自分の感情や日常を表現することが貴族社会で流行しました。これにより、漢文のような堅苦しい文章だけでなく、感情豊かな日本語による文学が発展しました。
問9	答え 最澄	最澄は、唐に渡って天台の教えを学び、日本に帰国して比叡山に延暦寺を建立しました。彼は「すべての人が救われる」という平等を説き、厳しい修行を重視する天台宗を開きました。また、比叡山には多くの優れた僧が集まり、後の日本仏教界に多大な影響を与えました。
問10	答え 仮名文字	仮名文字は、漢字の形をくずしたり、その一部を抜き出したりして作られた文字です。これにより、貴族たちは自分の感情を素直に表現できるようになり、和歌や物語の創作が盛んになりました。国風文化の発展を支えた最大の要因といえます。
問11	答え 藤原道長	藤原道長はこの戦略を最大限に活用しました。自身の子や孫が天皇となることで、天皇の代理である「摂政」や「関白」として政治の全権を握りました。その自信と誇りを象徴するのが『望月の歌』であり、満月のように欠けるものない権力を持っているという自負を表現しています。
問12	答え 白河上皇	白河上皇は1086年に天皇の位を子に譲り、自らは上皇となって政治を執り行いました。これを「院政」といいます。これにより、摂関家ではなく天皇や上皇が権力の中心となりました。
問13	答え 藤原氏	藤原氏は、自分の娘を天皇に嫁がせて生まれた子を次代の天皇にすることで、天皇の親戚（外戚）として権力を振るいました。藤原道長の時代に全盛期を迎え、朝廷の主要な官職を独占しました。
問14	答え 国風文化	国風文化は、仮名文字の普及による文学の発展や、独自の美的感覚を反映した建築、絵画（大和絵）などが特徴です。日本人の心情や感性を豊かに表現したこの文化は、当時の貴族社会のあり方を象徴するものとなりました。
問15	答え 紫式部	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問16	答え 藤原道長	藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后とすることで、揺るぎない地位を築きました。自身が摂政や関白になることもありましたが、それ以上に天皇の外戚という立場で朝廷を掌握しました。彼が詠んだ歌は、自身の権勢が満月のように欠けるところがないと誇る自信に満ちたものです。
問17	答え 藤原頼通	藤原頼通は、権力の絶頂期にあった藤原道長の息子です。1052年、彼は父から譲り受けた京都・宇治の別荘を寺院へ改め、平等院を建立しました。これは、当時の貴族たちが願った極楽浄土の姿を現世に再現しようとする試みでした。
問18	答え 藤原道長	藤原道長はその摂関政治の頂点に立った人物です。娘の彰子を一条天皇の中宮にするなど、一族の女性を権力の中核に送り込みました。「この世をば…」で始まる望月の歌は、彼が自身の権力の絶頂期を月になぞらえて詠んだものとして非常に有名です。
問19	答え 紫式部	紫式部は、中宮彰子に仕える女房として宮廷で生活しながら、全54帖からなる『源氏物語』を執筆しました。この作品は、貴族社会の人間模様や恋愛、栄枯盛衰を細やかに描いた世界文学の傑作です。また、彼女が日々の生活や宮中の様子を書き留めた『紫式部日記』も、当時の歴史を知るための貴重な資料となっています。
問20	答え 空海	空海は唐で密教を学び、帰国後に真言宗を開きました。密教とは、高度な修行と儀式を重んじる仏教の宗派です。彼は嵯峨天皇から高野山を下賜され、そこに金剛峯寺を建立して修行の拠点としました。多くの弟子を育て、学問の面でも大きな足跡を残しました。
問21	答え 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕える中で見聞きしたことや、四季の美しさなどを鋭い観察眼で書き記しました。これが日本最古の随筆である『枕草子』です。理知的な文体と、当時の宮廷社会の様子を描いた内容が特徴です。
問22	答え 東北地方	東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしていました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みましたが。
問23	答え 浄土信仰	浄土信仰は、「南無阿弥陀仏」と唱えることで、死後に阿弥陀如来のいる極楽浄土へ生まれ変わることができるとする教えです。貴族たちの間で広まり、平等院鳳凰堂のような豪華な阿弥陀堂が建立されるきっかけとなりました。